



協力して作業する児童と軍人ら

藁のかかし作りで交流深める

東北防衛局主催「かかし作り交流プロジェクト2018inつがる」が6月21日と22日、車力体育センターにて開催。車力小（藤田敏幸校長）児童と米陸軍車力通信所の軍人らが、かかし作りを通じて交流しました。この催しは、地域住民との相互理解を深めることを目的として、昨年から開催。

22日は、4年生30人と軍人ら12人が6チームに分かれて制作。稲垣藁の会（野崎克行会長）会員による実演を見た後、作業を開始。藁を支柱に巻き付け頭や胴体ができると、各々顔や衣装に工夫を凝らし個性的な仕上がりに。瓜田ひかりさんは「藁で三つ編みをしたりみんなで工夫した」、木村幹希君は「普段機会がないからいっぱい交流して楽しかった」と笑顔を見せていました。

ボランティアでヨルダンへ出発

独立行政法人国際協力機構（JICA）ボランティアの本年度一次隊としてヨルダンに派遣される藤田彩加さん（柏玉水地区出身）が6月21日、出発に先立ち市役所を訪れ、福島市長に現地での活躍を誓いました。

藤田さんは6月25日に日本を出発し、2年間滞在する予定。現地では、知的障害児施設のスタッフに新たな指導方法などのアイデアを提供し、マンネリ化している障害児支援活動に活気を与える役割を担います。藤田さんは「母親に習った小巾刺しや書道など日本の文化を通じて交流を深めたい」と意気込みを話し、福島市長は「体に気を付けて向こうの人と大いに交流してきてください」と激励していました。



ヨルダンでの抱負を語る藤田さん



台丸谷さん(左)と川村君(右)の誓いの言葉

安全・安心な地域づくりへ一丸

第68回「社会を明るくする運動」市民集会在7月5日、松の館で開催され、市民ら約400人が犯罪や非行のない明るい社会の実現を誓いました。

集会では、穂波小4年の川村空音君と台丸谷果凛さんが「つがる市が、心も体も元気な子どもでいっぱいになるようにがんばります」と力強く宣誓。社会を明るくする運動作文の発表では、田中萌音さん（木造中1年）が差別のない社会への願いを、小寺桃さん（車力中1年）がコミュニケーションの大切さをそれぞれ発表しました。アトラクションでは、かしわこども園と木造保育所の園児らが鼓笛演奏や踊りを披露。元気な演技に観客から手拍子が起こり、会場一体で盛り上がっていました。

まちなか歩いて健康促進！

市体育協会（成田昭司会長）主催の「第3回まちなか健康ウォーク」が7月1日、市民健康づくりセンターを主会場に開催されました。開会式で福島市長は「水分補給をこまめにし、無理なくゴールを目指してください」とあいさつ。蒸し暑い中、市民ら約120人が4kmと10kmのコースに分かれて商店街や公園内などを散策し、汗を流しました。

10kmコースに参加した粕谷奏音君は「3年連続1着でゴールしたよ。今年は友達と話しながら歩いたから、あっという間に感じた。もっと歩きたい！」と笑顔を見せました。

ゴール後は完歩賞として、しゃこちゃん温泉券とつがるブランド認定加工品である「姉妹コロッケ」が振る舞われました。



ウォークを楽しむ参加者

成田キスさん100歳おめでとう！

成田キスさん（富港町）が、めでたく満100歳を迎えられ、7月2日、入所している「ゆうあいの里」で顕彰状授与式が行われました。成田さんは大正7年7月1日旧車力村富港生まれ。亡夫・武夫さんと稲作を営みながら6人の子どもを育て、現在は12人の孫と9人のひ孫に恵まれ、職員の手を借りずに食事をしたり、ワイドショーや歌番組などテレビを見たり、毎日元気に過ごされています。授与式には着物で出席。お祝いに駆け付けた家族や施設入所者が見守る中、市の成田介護課長より顕彰状と記念品が手渡され、多くの祝福を受けていました。成田さんは「なんでも食べること。うってかへればもっと長生きする」と長生きの秘訣を話され、会場の笑いを誘っていました。



100歳の喜びを語る成田さん



「よしよし泣かないで…」彼女も泣きそう!?

赤ちゃんから「命」を学ぶ

7月10日、市民健康づくりセンターで赤ちゃんふれあい教室が行われ、稲垣中学校（工藤歩校長）の3年生27人が、育児体験を通じて命の大切さを学びました。

この日は、0歳児の親子18組の協力の下、4グループに分かれてふれあいがスタートしました。事前に人形で練習してきた生徒たちでしたが、元気に動く赤ちゃんを相手に一苦労。お母さんに助けられながらオムツ替えや抱っこなどに挑戦し、少しずつ赤ちゃんと心を通わせていきました。また、育児の体験談にも真剣に耳を傾け、親になる喜びと苦勞を感じていました。

小見山結多君は「貴重な体験ができた。帰ったら親にありがとうと伝えたい」と話していました。

恒久平和への誓い新たに

7月19日、松の館で戦没者追悼・平和祈念式が開催され、市民ら約150人が市の戦没者1,325柱の御霊の冥福を祈り、不戦の誓いを新たにしました。

式典では、倉光副市長が「戦没者とそのご遺族には、深く敬意を表する。恒久平和の確立に向け不断の努力を続ける」と福島市長のメッセージを代読。遺族を代表して市遺族会の工藤光則会長が「戦後世代が8割を超えたいま、平和の大切さを次の世代にしっかりと伝えていく」と追悼の言葉を述べました。その後、参加者一人一人が祭壇に白菊を献花し、戦没者に思いを馳せていました。また、童謡「蕾の会」による追悼合唱も行われ、平和への祈りを込めた歌が披露されました。



戦没者の冥福を祈る参加者



安全を祈願する出席者

海開きを前に安全祈願

7月15日、マグアビーチと出来島海水浴場で海開き式が行われ、関係者らが遊泳期間中の安全を祈願しました。

マグアビーチでは、関係団体の代表者ら12人が出席。神事が執り行われた後、市観光物産協会の川嶋大史会長が「安全を第一に、訪れた人に楽しいつがる市の夏を過ごしてもらえるよう盛り上げていきましょう」とあいさつしました。

両海水浴場とも、開放期間は8月15日まで。今年から出来島海水浴場にもライフセーバーが配置され、監視員とともに水辺の安全を守ります。

また、海開き式を前に地域住民が清掃活動を実施。出来島海水浴場ではNPO法人あいうえおの会（奈良衛理事長）会員、マグアビーチでは自衛隊、米陸軍関係者らも協力しました。